

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・0724 NO17

校長 伊波喜一

AIの 知に負けるなど 応援を 若手棋士らの 勢い凄し

中学3年生の藤井聡太4段が、デビューから29連勝を続けている(6月26日現在)。神経をすり減らしての対局中、追い詰められても決して動揺した素振りを見せないのは、凄いとしか言いようがない。加えて印象に残るのは、笑顔と礼儀正しさだ。笑顔で対局を振り返り、対戦相手を決してけなさず、学んだことを語っている。勝負師である前に、優れた人格がうかがわれる。筆者の小学校時代の友達にNがいる。Nは体の調子が良くなく、体育はいつも見学していた。真っ黒に日焼けしている子ども達の中で、Nだけ皮をむいた瓜のように真っ白だった。教室にいても、全く目立たない子だった。ひるがえって、筆者は大声を上げて、外で走り回っていた。ある時、担任に怒られてしょんぼりしていた筆者の目とNの目とが合うや、Nがにこりと微笑んだ。(ほっとするなあ)。Nは自分が動けない分、周りに気を配っていたのだということが、今になって分かる。その温かみが笑顔となって、友の心を癒したに違いない。多くの人の心に灯をともしてくれたNにもう一度会い、お礼が言いたい。